



市長 からの 手紙

66 日本農業遺産授与式

4月19日、農林水産省本館で、日本農業遺産の認定授与式がありました。

日本農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、ランドスケープ、生物多様性などが一体となった農林水産業システムのうち、世界および日本における重要性、並びに歴史のおよび現代的重要性を有するものを農林水産大臣が認定する仕組みで、昨年度から始まりました（農林水産省のホームページより）。

実は以前から、国連食糧農業機関（FAO）が世界農業遺産の認定を行っており、世界では16か国37地域、日本では8地域が世界農業遺産に認定されています。日本農業遺産は世界農業遺産の日本版と言えます。

この日本農業遺産に、川越市・三芳町・所沢市・ふじみ野市などで組織する「武蔵野の落ち葉堆



肥農法世界農業遺産推進協議会」が申請した「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を含む8つの地域が初の認定を受けました。この認定授与式に、会長である三芳町の林町長、所沢市の藤本市長、ふじみ野市の高畑市長などと出席した次第です。

武蔵野の落ち葉堆肥農法は約360年にわたり続けられてきた農法で、平地林の落ち葉を堆肥にして畑にすき込み、作物を育てるものです。川越藩主・松平信綱が福原地区の開拓において、一戸の農家の屋敷、畑、平地林を一組にし、短冊形の土地を配分したことが始まりで、のちの川越藩主・柳沢吉保が行った三富の新田開墾の手法となりました。

認定授与式では、会の代表である林三芳町長が農林水産大臣から認定証を受け取り、三芳町の農家の高橋敦士さんが、落ち葉堆肥農法に関するプレゼンテーションを行いました。今後も三芳町等と一緒に、この農法を守る地域や農業を支援してまいります。

川越市長 川合善明

オリンピック
に向けて！

「おもてなし」アイデアを募集します

オリンピック大会室 ☎224-6315

☎224-8712

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴルフ競技が市内の霞ヶ関カントリー倶楽部で開催される予定です。今後、大会を契機に、世界中から多くの観光客やゴルフ競技を観戦する方が川越に訪れます。

そこで、市では市内に訪れる方をおもてなしするアイデア（施設等の整備を除く）を募集し、寄せられたアイデアを参考に、おもてなしの実施に取り組みます。実施場所は、駅・観光エリア・競技会場周辺などです。

世界中の方を「おもてなしの心」と「アイデア」でお迎えしましょう。たくさんのご応募、お待ちしております。

こんな視点のおもてなしを募集します

●川越の歴史や文化・産業・自然などの特色を生かした

おもてなし

●外国人の方、子どもや高齢者、障害のある方など川越を訪れる全ての方が安心して過ごすことができるおもてなし

●ゴルフ競技の観戦に来た方へのおもてなし

●川越の新たな魅力となるおもてなし

応募方法…同室（本庁舎5階）・南連絡所・公民館・市民センター等にある応募用紙に必要事項を明記し、6月9日（金）（必着）までに〒350-8601川越市役所オリンピック大会室（応募用紙の配布場所への持参・市ホームページからも可）

*取り組み内容は、後日、市ホームページ等でお知らせします。